

郷土こぼれ話

地域の神様 ⑱ 直実ゆかりの大幡

熊谷次郎直実には、二人の娘がいた。長女玉都留姫、次女千代鶴姫ともに大幡にゆかりの場所やものがある。今回はゆかりの地や物を紹介する。

① 玉都留姫ゆかりのもの



(1)薬師堂(清水氏邸内)



(3)清安寺塚

…清安寺があった場所… …福王寺があった所…
 玉都留姫の墓は、かつての福王寺跡にあり、現在福島氏墓所内にある。自然石に刻まれた文字は読みにくい、新たに石碑が添えられている。

玉都留姫の墓は、かつての福王寺跡にあり、現在福島氏墓所内にある。自然石に刻まれた文字は読みにくい、新たに石碑が添えられている。

仏像の中でも、薬師如来は現世利益を実現してくれる仏像であ



(2)薬師如来(中央)



(4)玉都留姫の墓

薬師如来と日光菩薩(左)と月光菩薩(右)を合わせて三尊像という。恵心の作だと伝えられている。かつて玉都留姫の守護仏薬師如来は清安寺にあった。清安寺が廃寺となったとき、薬師堂だけを、清水氏の祖先が自宅内に移築した。現在薬師堂と本尊が残されている。また、清安寺は消防本部と原島の八坂神社の中央付近に清安寺塚として姿を残している。

り、ご利益として病氣治癒（特に目病）、健康長寿、災難除去、安産祈願、現世利益が挙げられる。

② 千代鶴姫ゆかりのもの



(5)毘沙門堂(養平寺)



(6)毘沙門天



(7)毘沙門天の説明

次女千代鶴姫の守護仏は、毘沙門天である。毘沙門天は福王寺にあったが、明治始め福王寺が廃寺となるに従い、毘沙門天は養平寺（原島）に移された。倉に保管されていたが、いつでも参拝できるように新たに毘沙門堂が作られた。傍らには、毘沙門天の説明が記されている。

説明には、「毘沙門天（多聞天） ご利益一戦勝・福德・財宝来福・仏法守護 護法神の四天王や十二天では北方の守護神である。複数で祀られる場合は多聞天と呼び、単体で祀られる場合は毘沙門天と呼ばれる。この尊像は、鎌倉時代初期に活躍した熊谷出身の武士熊谷次郎直実公の次女である千代鶴姫の守護本尊であったとされ、後に福王寺に祀られた。福王寺が廃寺になるに伴い養平寺に移されたとされる。」と記されている。

福王寺は、愚禅和尚が隠居寺として開山し住した。愚禅和尚の墓は、廃寺福王寺の墓地にある。玉都留姫と同じ墓地内である。

参 考 : 「新編 熊谷風土記稿」

HP「熊谷のお散歩」

文・写真：大幡公民館 広報編集委員会

大幡公民館だより別刷り 平成30年11月